
○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前10時50分）

◇ 齊 藤 重 君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位2番、齊藤重君。

（8番 齊藤 重君 登壇）

○8番（齊藤 重君） 皆さん、ご苦労さんでございます。

まず、この場をお借りいたしまして、一言お祝いを申し上げます。

齋藤町長、この度は再選を果たされ、おめでとうございます。健康に留意されまして、住民の付託に応えるよう、信念をもって積極的に事にあつたっていただきたい。期待しております。

通告に基づき一般質問を行います。今回の私の質問は、大きく1つ、水道事業、2つ目に伊豆まつざき荘の2点でございます。

水道事業については、平成15年の厚生労働省から発表された水道ビジョンの方針を踏まえ、わが町の水道事業のあるべき姿を検討して、今後とも安心して安定した給水と持続的にしていくことを目的に松崎町水道事業ビジョン策定を行い、平成21年度を初年度として平成30年度を目標年数とする10年間を計画期間と定め、目標に向けた事業が展開されております。

それに基づいて、平成21年度事業の大沢新水源、江奈水源及び中川本管理設工事と大型工事が完了して、地域住民に安定供給がなされ、安心を与えているのもご承知のとおりでございます。

今回私が議題とした、八木山、石部地区の新水源試掘事業も策定に基づき、順位選定のもとに計画されたものと認識しておりますが、計画の目標年数を残り5年とする中で、実施成果を上げるため努力は当然必要だと考えます。

また、八木山浄水場の耐用年数が17年とされる中で、過去、洪水時に、大水の時ですね。担当職員の・・・、老朽化した山中施設、これは機器室ですが、マイナス耐用年数27年となっております。これらの施設に泊まり込み管理とか、大変な思いをしております。駆けつけた時に大水で施設にたどり着くのが大変だったとか、苦労話等は安全面からも「大変だなあ」で済まされる問題ではないと痛感しております。

自然災害の多発している昨今であり、この事業の目的を達成するために、十分な議論と確認

のうえで、対応の必要があると思います。

6月議会提案の新水源250メートル再試掘の議案は1億円余の大事業にも関わらず、唐突に、また、安易に出された感が強く、説明と協議不足がもたらした結果ではないかなと、そのように感じております。議会の否決となった要因は、そこにあると思います。

行財政運営の道筋はすべて総合計画に基づき、部門ごと、担当課の責任と力量によって実施に向けた努力をされていると思いますが、当然のこととして、実施に至るには、議会チェックの高いハードルがあります。それは住民の血税を無駄にさせないというための議会の本分責務であるからでございます。

次に、2つ目の伊豆まつぎ荘の運営についてを述べます。

1つ、伊豆地域の観光を取り巻く状況は非常に厳しく、公社職員の努力の甲斐なく、伊豆まつぎ荘も赤字経営を余儀なくされ、外部委託か売却かと話題になっております。というより、騒がれております。町長は公社3年間の委託を延長し、現状維持とする考えに変わりはないですか。

2つ目に、伊豆まつぎ荘の運営実態を見るに、建築費の借金返済に年間6000万円かかっております。これが重荷となり赤字経営の道を辿っている。極論ではあるが、借金の6億5000万円の返済を大家(町)として行い、公社から切り離し、身軽にしてやる考えはないですか。

3つ目に、経営不振とされ、職員の給与、ボーナスのカットがもたらせた結果として、板前さんや従業員が定着せず、大きなマイナス要因となっております。給与アップ等の従業員の待遇改善を行い、観光の原点に向けた教育で松崎の顔、シンボルとしての再構築を図ることは長の責務と考える。その気はございますか。

大きくはこの2点について明確な答弁を求めまして、壇上からの質問といたします。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長(齋藤文彦君) 齊藤重議員の一般質問にお答えします。

1. 水道事業における今後の課題について。

①「安定した給水事業確立のため、耐用年数等を鑑み、計画に基づいた施設整備、配管理設工事等の大型工事がなされているが、現在計画途上にある八木山、石部新水源掘削工事もこれらを勘案した対応と思う。3月定例会において、時期尚早として修正可決した250メートルの新井戸掘削工事について、再度、議案を提出する考えはあるか」、②「新井戸掘削については、何とでも成功を切望するが、様々な事態が想定される。結果状況に応じた基本的な対処方法を、どのように考えているか」この2点についてであります。

3月の定例会において修正可決された新井戸掘削工事につきましては、将来の水道事業の安定供給体制を確保するために必要な水源を開発する工事であるので、私としても実施したいと考えております。

しかしながら、議会ご指摘の現有施設の耐用年数の残期間の関係や今後実施しなければならない老朽管更新事業等を考慮しますと、新水源開発の実施時期については、財政的な検討を踏まえた上で慎重に協議検討したいと考えています。

仮に新井戸整備を行うとした場合、はじめに試掘をした上で湧出量や水質等のデータを把握し、良い結果であれば本掘削を行い地下水源として確保することになると思います。

当然良い結果を期待して事業を行うわけですが、仮に結果が思わしくなかった場合は、その時点で判断することになります。

2. 伊豆まつぎき荘の運営について。

①「伊豆地域の観光を取り巻く状況は非常に厳しく、公社職員の努力の甲斐なく、伊豆まつぎき荘も赤字経営を余儀なくされ、外部委託か売却かと話題になっている。町長は公社3年間の委託を延長し、現状維持とする考えに変わりはないか」についてであります。

伊豆地域の観光を取り巻く状況は依然厳しく、伊豆まつぎき荘の11月末の宿泊実績は、前年度より1080人減の1万2682人（対前年92.2パーセント）で、伊豆の長八美術館などの観光施設も軒並み減少しております。

このような状況を打開すべく、現在、伊豆まつぎき荘では、5月に作成した経営改善計画に基づき、事業を進めておりますが、富士山プランなどの影響か11月の宿泊客数は増加し、12月以降の予約状況も良くなっています。

伊豆まつぎき荘は、来年3月に指定期間が満了となることから、これまで諮問委員会や議会全員協議会等で指定管理者について協議させていただきました。

先ほどの藤井議員のご質問に対する回答と重複いたしますが、伊豆まつぎき荘は、地元雇用や町内仕入れに大きく貢献し、地域活性化が図られていること、グリーンツーリズムの拠点としても欠くことのできない施設であり、町のシンボリックな施設であることなどから、引き続き3年間、松崎町振興公社を指定管理者として指定し、一刻も早く黒字になるよう全力をあげて取り組んでまいります。

②「伊豆まつぎき荘の運営を見るに、建築費の借金返済に年間6000万円かかっている。これが重荷となり赤字経営の道を辿っている。極論ではあるが、借金の6億5000万円の返済を大家（町）として行い、公社から切り離し、身軽にしてやる考えはないか」についてであります。

伊豆まつぎき荘事業会計は、平成16年から平成18年にかけて、総額9億8000万円の資金を金融機関から借り入れ、建て替えを行いました。その内、平成17年に借り入れた5億円の資金のうち、未償還分3億8700万円につきましては、平成23年9月に一般会計から資金を借り入れ償還し、平成24年度末の未償還残額は、6億9000万円程となっています。

斉藤議員ご指摘のとおり元利返済が年間5600万円となることから、経営に対する重荷となっていることは事実でございます。

できるだけ身軽になれば確かによろしいわけですが、地方公営企業法では、企業会計の経費は、経営に伴う収入をもって充てなければならないという独立採算制の原則があり、伊豆まつぎき荘事業会計に対して町が繰出金を出すことや町が肩代わりすることについては問題があります。

金融機関から借りている分を、再度一般会計から借り入れをして償還することも一つの方法かとも考えられますが、起債の関係もありますので、県や金融機関などとも十分協議していかなければならないものと考えております。

③「経営不振とされ、職員の給与、ボーナスのカットがもたらせた結果として、板前や従業員が定着せず、大きなマイナス要因となっている。給与アップ等従業員の待遇改善を行い、観光の原点に向けた教育で松崎の顔、シンボルとしての再構築を図ることは長の責務と考える。その気はあるか」についてであります。

伊豆まつぎき荘は、正規職員9名、臨時職員12名・パート職員が22名であり、内部会議や全体研修も十分にできない状況となっております。

また、職員を募集しても応募も充分集まらないのが現状で、こうしたことも、伊豆まつぎき荘の経営悪化の一因となっているものと考えております。

議会全員協議会でご説明させていただきました業務改善計画の中では、誘客策とともに、業務内容の見直しと組織体制の強化をあげ、職員の比率や賃金の見直し、研修による知識の共有化・問題解決能力の向上・接遇の改善を図っていくこととしております。

伊豆まつぎき荘の職員が、施設を愛し、やる気をもって、生き生きと仕事ができる環境を作っていくことが、ひいてはお客さまの満足度を高め、利用者増につながり、松崎町の顔・シンボルである素晴らしい「伊豆まつぎき荘」になると認識しております。振興公社と協議して待遇改善を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○8番（斉藤 重君） 一問一答でお願いいたします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○8番（斉藤 重君） 水道事業から本件については、石部、岩科両地区の調査ボーリングは実施されまして、結果として、20メートルの試掘調査は残念ながら失敗に終わったと、それで、600万円もの金を費やした、この事実がございしますが、町長も引き続き実施したいと、そういう心構えでございしますので、今までのこの600万円の分については投資と考えて、その後の調査結果を軸に前向きな検討が必要ではないかなと思います。

調べるところ、北日本ボーリングの独自調査による結果では、バキュームウエル構造なら1井戸で500トン程度が保証できるという数値が出ておりますが、それに大きな期待をもっておりません。

そこで、原因的な問題で具体的に伺います。石部地区の事業を行った場合に、これが成功した、その時に、雲見を含む三浦地区全体への給水可能か。この問題と、2つ目には、成功報酬方式でどの数値、パーセントなら供給可能か。まず、この2点について。これは、現在、現場担当である担当課長がいいと思います。

議長、担当課長の方をお願いします。

○生活環境課長（斉藤昌幸君） 1件目の石部を掘削した場合の三浦地区の可能性、用水路の可能性ということでございますけれども、三浦地区、岩地・石部・雲見地区を含めた最大給水量という考え方で、揚水量が決定されるわけでございます。三浦地区の合計が約700m³、最大の給水量が必要でございますけれども、これを井戸でまかなうとしますと、揚水量の70パーセントが最大給水量という計算になりますと、湧水量は1000m³必要ということになります。

続きまして、2番目の北日本ボーリングの成功報酬の関係でございますけれども、基本的に言えば、3月の議会で約5600万円ほどの掘削の費用の方を計上させていただきましたけれども、それは成功報酬という意味でございます。すなわち、逆に言うと、これは1本あたりの価格になっているわけでございますけれども、石部のことで例にとりますと、1本あたり500m³以上確保されれば、成功報酬は成り立つという考え方になるわけでございます。

いずれにしても、三浦地区としては、日最大700m³を確保するためには、揚水量としては1000m³以上の揚水量が必要だろうという認識というか、計画になるわけでございます。

○8番（斉藤 重君） はい。よくわかりました。

次に、同じく課長に聞きたいけれども、以前から雲見浄水場の急速ろ過器方式の導入に関しては、以前から地区の強い要望があったように私も認識しておりますが、その後、その問題はどのようにしているのか、概要を説明してください。

○生活環境課長（斉藤昌幸君） 基本的に言いますと、あの雲見地区だけをまかなうため急速ろ過装置という計画でお話の方は進んでいるという認識でございますけれども、ただ、現在、問題としましては、急速ろ過の費用は確か2億円とか3億円、非常に莫大な価格になるかと思うわけですね。それを雲見地区のみだけで投資できるかということは非常に慎重に考えなければなりません。その上で今回の石部の井戸の開発のことも勘案しますと、急速ろ過にするのか、井戸開発するのか、それは非常に今後検討していかなければならない。選択しなければならない重要事項だと考えておりますので、この場では特に現段階では急速ろ過については、検討の一つという考え方でありまして。

○8番（斉藤 重君） 結局、要するに、この石部地区の掘削が希望どおりに取水できれば、100 m³ですか。できれば、この雲見の方の対応は必要なくなるという極論でいいわけですね。はい。わかった。

次に進みます。今度は八木山の掘削をした時に、八木山が出たと、その場合に、逆に三浦方面への給水もできるのか。

現在は八木山の高野山から回っているわけですが、三浦方面は全部ね。その恩恵を受けているわけですが、八木山で掘り当てたものについて、その水が三浦方面まで給水できる可能性はあるのかなと、その点、同じく課長に聞きたい。

○生活環境課長（斉藤昌幸君） 現在、八木山の浄水場の方で、自動車学校の柳原のポンプ室から送水管を使って岩地・石部へ給水をしております。岩科と岩地と石部の最大給水量約 700 から 800 m³というふうに動いておりますけれども、じゃあ、これを・・・、今現在は確かに表流水でございますので、充分まかなえるわけでございますけれども、じゃあ、これを八木山の井戸でまかなえるかといいますと、先ほど申しましたとおり 70 パーセント計算でいきますと、約 1200 m³の揚水量が1本の井戸で必要だという考え方になります。

もちろん、掘削をして、日あたり 1200 m³の揚水量が確保できれば、それは大変うれしいことでございますけれども、いずれにしても、掘削してみなければわからないということでございますので、その揚水量によって、岩地・石部の供給については考え方もまた変わってくるのではないだろうと思うわけでございます。

○8番（斉藤 重君） このいま1、2という話を聞く中で、石橋を渡る意味からもということで、順序的には、石部の方から、この件については、前議会の説明では、25年に岩科を掘削、後に、確認後に26年度以降に石部をやるという説明がございましたが、今の段階で八木山からの三浦への給水、配水は大変困難だという観点から見ると、これは石部の方から事業を始めた

方が良くはないかと思うわけですが・・・。

それと、もう一つは、石部が成功すれば三浦方面へと現在行っている、先ほど課長の・・・柳原、教習所の所からの配管等がいなくなると、三浦が出ればね。確認・・・、聞いていてね。そういうことから、私は、この着手するには、岩科ではなく、三浦からまず確認で始めた方が良くはないかという点については、今度は町長、どうですか。

○町長（齋藤文彦君） 新井戸については、3月に修正可決されました。山口と八木山と石部の新井戸掘削工事なんですけれども、6人の皆さんに反対されたわけで、公営企業委員会からの方も「人口が少なくなっているのに、それほどの大金をかける必要があるのか」と言われておりますので、先ほどお答えしたとおり、これは内部で本当に詰めてから議会の方に話をすることになると思います。

ただ、その石部とか八木山とか、今は言える段階ではありませんので、やっぱり6人の皆さんが反対されたということは、それなりの厳しい判断だと思いますので、内部でもう一度検討して、ちゃんとしたら議会の方に提出して、話をしたいと思っています。

○8番（斉藤 重君） 私もね、前回議会で否決ということについては、先ほど前段で述べたとおり、ああいう状況だったからだと思いますよ。

それで、もう一つは、言うなれば、今の施設が老朽化・・・、柔軟とは言ってもね、それなりのいろいろな老朽化に伴う工事が増えてくるわけだと思うんですよ。

先ほど言ったように、あの施設も機械室がマイナス耐用年数27年ということで、なんかキツネカタヌキが棲んでもいいような・・・、ぼくらが視察に行ってもね、そんな感じがする所ですが、そういうことを踏まえた中で、計画だけは早い方が良くはないかということで、前提にやるべきじゃないかとぼくは思う中から、当然質問するわけですが、どうする、こうするはいずれも後の結果で結構ですけれどもね。ぼくはこれをやるべきだというふうな考えのもとに伺っています。

その中で、だからこういう具体的な質問ということで前置きして聞いていますよ。わかりますよね。理解してください。

そこで、今のことを認識しながら、例えば、八木山をやって、石部をやった、当然何か調査の結果だと、大変いい結果が・・・というより、予想が出ておりますので、両方が確かに出てくれれば、それを望むわけですけれども、仮ということもありますから、仮に、岩科も出たよと、だけど、三浦が出なかったよということですよ。その可能性はあるわけでしょう。

この事業が、結局、三浦がだめだった。三浦がだめだったという時に、三浦というより石部が

だめだった時には、今の高野山の恩恵を得るしかないわけですよ。その時に、あえて、「いいじゃ、八木山もやろうじゃ」という、そういう考えがあるかどうか、これを聞かせてください。町長。

○町長（齋藤文彦君） 先ほど議員さんの方からありましたけれども、やっぱり私は、表流水というのは、これから非常に大変だと、井戸水を使っていくのが必要だと思っていますので、それを進めていくわけですけども、まだ、先ほど申したとおり、井戸を掘るということは本当に博打で、出るか出ないかわからないのに大金をかけるわけですから、非常にいま苦慮しているところで、そういうことをもう一度内部で検討してから、そのようなことを議員の皆さんに話していきたいと思っています。

ただ、先ほど申したとおり、6人の方が反対されたということは非常に重く考えていますので、もう一度真剣に考えて、人口も減少しているわけですから・・・、やっぱり井戸というのは、本当に必要だと思っていますので、これは誰がやるかの決断になると思いますけれども、そのようなことを鑑みながら内部で調整して、ある程度目安が出たら、議員の皆さんの方に話をしていきたいと思います。

○8番（斉藤 重君） 私もね、結局ね、町長選を勝ち抜いてきてという中で、行動に移る年になるんじゃないかと、そうしてもらいたいという意味からいろいろ願うわけですけども、財源的なものは充分承知しています。でも、やっぱり住民の生活というのは、またそれ以上に大事なんですよね。

それで、いま災害も大きな・・・、大島にしろ、どこにしろ、大きな災害があって、西伊豆もそれで大変苦慮したわけですが、こういう八木山という山の中で水の出る所ということで、そういう事態になった時に、あの水源が表流水で・・・、あの川がとか、山崩れの時を考えると大変苦慮するわけですよ。そういうことについて、地震の大きなことということ以外に、新水源ならば表面的なものについては安全なわけですね。井戸というのは。

江奈の方の中学の前もかさ上げをして、あそこは立派なものが出て、大変喜ばれているわけですが、安定供給というものを考えると、先ほどの反対というのは、検討委員会の中の反対ですか。6人。その点だけ・・・。併せて教えてください。

○町長（齋藤文彦君） 反対というのはですね。公営企業委員会の中で、「人口も減少してくるし、それだけお金をかけるのは大変じゃないか。」「井戸を掘るよりも、もうちょっと修理、改良工事を実施した方がいいのではないか。」、そのような話が出たわけでございます。

○8番（斉藤 重君） その点について、これをやっているとなくなるので・・・、わかりました。

一応この件については・・・、まだあるんですが、とにかく住民の生活、水というものは大切なことですから、逃げないようにやってください。

○町長（齋藤文彦君） 私が町長になって、すぐに中川の方が断水になりまして、三聖苑の所で皆さんに水を配ったことがあるわけですけども、非常に大変な思いをしましたので、皆さんは、水道というものは蛇口をひねると水が出てくるものだと思っていますので、そのようなことを考えて、非常に重要なことだと思ってやっていきたいと思います。

私は、ただ、その表流水というのは、これから非常に厳しいと思いますので、江奈の井戸が松崎地区、そして、大沢の井戸が中川地区、もし石部が出たら、石部は三浦地区、八木山が出たら、岩科地区と、この井戸でやっていくのが、私は一番いいと思っていますので、このようなことを考えながら、先ほど議員さんに言われたとおり、いろいろ内部で煮詰めて、ある程度決まったら、皆さんの方に話してみたいと思っています。

○8番（斉藤 重君） やっぱりね、町長、先送りの2～3年というのはすぐに過ぎますよね。そういうことから、やっぱり現施設の工事も大きい事業になりますね。もしやるとなると。これ以上に大きくなると思いますよ。そういったことも踏まえて、やっぱり現役であるあなたが判断する時も大事じゃないですかということをおまえながら、早い選択で行動に移してもらいたい。そういうのを願いながら、先に進みます。

次は、伊豆まつぎ荘の運営についての件ですが、先ほど同僚議員の若手議員からいろいろの質問、活発な意見がありましたが、その黒字化への対応とかということについて、説明が、私が通告書の内容説明がそのまま返ってきているようなあれなんですけど、いつもやっているようなコスト削減、計画設計とか、そういうもので返ってきておりますが、私はまた別の角度からちょっと伺いたいと思います。

5月にこの改善計画に基づいて3年やっている中で同じく何とかしていきたい、黒字化にしたいということなんですけど、先ほどの質問にもあったけれども、これは、私が問うている返済、借金のもも含めた中で、それがなんかその中がいつも外れているような気がしているんですけど、その点、どんなふうを考えているか、ちょっと聞かせて。

○議長（稲葉昭宏君） 町長かな。課長かな。

○町長（齋藤文彦君） もう一度すみませんが、質問を・・・。

○8番（斉藤 重君） いろいろ黒字化したいという計画はわかるんですよ。その中で、ぼくが問うている中で、これを・・・、いつも言うように、こういう形でお客さんをこうしているああしている、理想論がたくさん出ているんだよね。全協でも言ったということ・・・、わきまえていま

す。それは。

それが、この中に借金の問題が含まれた中の改善計画でないような気がするから、その点を
どういう対応しているかというのを具体的に聞かせてもらいたい。

○議長（稲葉昭宏君） わかりますか、質問の趣旨が。いいですか。じゃあ、町長の方から先にや
ります。

○町長（齋藤文彦君） 借入金がまつぎ荘を苦しめているのは本当だと、それは非常に厳しい
わけでございますけれども、それを何とかしろということで、一般会計の方から借入を行った
わけですけれども、あと残りがあるわけですけれども、それを、頭の中に考えないわけではない
わけですけれども、そのようなことを3年間のうちにそれなりに考えてやっていきたいと思
っているところでございます。

詳しいことは、あとで担当課長の方から説明します。

○企画観光課長（山本 公君） まつぎ荘の黒字化に向けて誘客の増を図るといことと、合
わせてコスト削減というようなこともあるわけございまして、コスト削減の中で、企業債の
借り替えというようなことで、その関係につきましては、松崎町の一般会計の方から平成23年
の時に借り替えて、2パーセントを0.5パーセントに変えてやったということも削減になっ
ておりますし、今年度1.9パーセントであったものを1.2パーセントに変えさせていただいた
ということの中でも軽減を図っているところでございます。

先ほど町長の答弁にありましたけれども、このあたりも今後検討していく必要があるかなと
いうふうに考えております。

○8番（斉藤 重君） 今のその努力、借金返済を公社からというようなことについては、いま
課長も言ったけれども、繰上償還とか、一般会計からということと、また、金融機関の理解の
もとに1.9を1.2パーセントにとりか、そういう努力は十分に承知しておりますよ。

その中で、伊豆まつぎ荘の経営内容の実態をみると、一般的に言う貸店舗料、あれを借りて
いると思えばいいんですね。指定管理料、これについては、2400万円からというものはちょっ
と納めているわけですね。

それで、借金返済がなければ、2000万円からのプラス決算となると、そういう具体的な数字
もありますけれども、非常にこういう問題について、この対応について、副町長、事務方として
やってきた関係で、その点はどう思いますか。

○副町長（松本忠久君） 斉藤議員が仰せのとおり、まつぎ荘を新たに立ち上げるにあたって、
9億8000万円の借金をして、これまでやってきているわけです。この借金は、松崎町長がハン

コを押して借りた金ですので、これは確実に町として償還はしていかなければならないということですが。

企業会計としてやっておりますので、これは当然のことです。ただ、議員がおっしゃられるとおり、まつぎ荘の稼ぎがそこまで追いつかないというのが現状でございます。

一般会計の方からの借り替えというようなことで多少てこ入れをしているわけですが、それでもまだ足りないというような状況の中で、議員がご質問の「何とかその辺を軽めるような手立てはないか」というようなご質問でございますけれども、一応企業会計でございまして、公営企業法に基づいて経営をしているわけでございますので、理由もなく一般会計の方から繰出しとかというのは安易にできない状況でございます。

ただ、半分、高い利息の方だった2パーセントの方を一般会計の方から借りて、市中銀行の方へ繰上償還をして、償還期限を延ばして、金利も下げてもらってというようなことでやった経過もありますし、また、今年9月には、ちょっと銀行の方と交渉して金利を下げたというようなこともやったわけですが、なかなかそれでも経営がうまくいかないというような状況の中で、議員がご指摘の「もっと踏み込んだ」というようなことも全然考えられないわけではないわけですが、この部分については、もう少し内部で慎重に検討していかなければならないというふうに考えております。

○8番（斉藤 重君） いろいろなかなか難しいと言え、難しいですけれども、やっぱりいろいろその数字的な努力をしているけれども、現在、しかしながら、25年度の現在で、2口で6億4000万円、年間5400万円の返済があるという、これが重圧となっていることは事実なんです。そこですね。公営企業法とかというもののなかで、独立採算制とかいうことを謳いながら、「それだからしょうがないや」的な考えの発言になるわけですが、まだこれは・・・、いま副町長が言ったように、この借金は純然たる町の借金ですね。町の借金でしょう。そういう中で、基本的には、先ほど町長も言ったバブル期の最盛期には、まつぎ荘から2億2000万円近いものが入っていると、そういうふうな流れの中で、いま四苦八苦している時に、「それは関係ない、お前ちが払えよ」的な一般論で言うと、状況では大変厳しいわけですね。それが結局、まつぎ荘の職員がいなかったり、応募しても出なかったり、私の通告書にあるとおりで、これでは職員がいなくなっちゃうんですね。

小手先のいろいろのああいふ改善計画とかと言ったって、最終的にどうなってくるんですか。この3年間町長が頑張るという中で、それをやる、立て直す覚悟はありますか。それを聞かせて。

○町長（齋藤文彦君） ある人がですね。振興公社というのは、例えば、鶺鴒の鶺鴒みたいなものだ、一生懸命鶺鴒匠が操って、鮎を口一杯含んできて、船に引き揚げられて、吐き出されて、それが一般会計へと・・・、事業会計へいくと、それで、かかったお金は町が払うと、非常に振興公社の職員はかわいそうなどころがあるよというようなことを言われたことを私は思い出すわけですが、いま齋藤重議員の言うことは痛いほどわかっています、副町長ともいろいろ先ほどのことについて話し合ったことがあるわけですが、そのようなことも頭の視野の中に入れてやっているところでございます。

○8番（齋藤 重君） 結局ね、伊豆まつぎき荘の現在の内部留保資金というものが24年度は8400万円だったと、この25年度現在で5700万円となったと、あと2年・・・、先ほどの同僚議員の「そこまでもたない」という発言もありましたけれども、内部留保というのは、もう手持ちのものがなくなっちゃうんですね。その後になったら、どうなっていくんですか、これは。すべて一般会計からやっていかなければならなくなっちゃうでしょう。

そういうことの中で、その後の赤字補てんは一般会計で行うことになる・・・、年月を経れば減価償却が減ってくるなどと言っていると、伊豆まつぎき荘は、赤字施設の烙印から逃れられなくなる。人が集まらなくなるでしょう。施設の維持が困難になる。これは目に見えていますね。こういうことは。

地方公営企業法の縛りとか、県のしがらみ解消とか、金融機関の理解を得て、何とか現状打開に最善を尽くすべきだと思うんですが。その点はいかがですか。

○町長（齋藤文彦君） 齋藤重議員の言うことは痛いほど良くわかっていますけれども、ここでまた検討というと、また「なんだ、お前、何もしないのか」と言われますけれども、前向きに検討したいと思います。

一回一般会計から借りてやっているわけですから、そのようなことも考えてやっていきたいなと思っています。

○8番（齋藤 重君） やっぱりね、現状から逃避するという考え方で、やめてしまえばゼロになるという・・・、苦労はないかもしれないけれども、そこには、最終的には大きな借金が残るわけですね。やめられないでしょう。そういう状況の中で、外部委託とかということについては、私は、非常に、いま働いている方たち、また今から頑張ってもらえる人たちのためにもこれはちゃんと維持すべきじゃないかと思うんですが。

企業会計というけれども、その埋め合わせというのは、何かいい方法はないのかなと思うわけですが、そこは大いに・・・。

ここでずっと・・・、一つ公社職員は臨時を含めた給与・ボーナスカットが5年間続いていますね。ポイントを入れますけれども。現在の職員体制は新人と役職員、肝心の間がないのが現実ですね。この体制では組織が成り立たないんじゃないですか、こういうことなんですよ。やっぱりそこにはちゃんとした内容を良くして、体制を整えて、金を出すべきものは出して、家庭を守っている人もいるでしょう。そういうことを踏まえた中で、ちゃんとしてやらなければ、あの施設はなくなっちゃうんじゃないですか。だめになっちゃう。

ただ借金を・・・、何もなくなって、借金をポーンて一般会計の方に、町として払わざるを得なくなるんじゃないですか。そういう転ばぬ先の杖というような考え方で何かいい策はないと言えば、ないで終わりますか。何か回答はありますか。

○町長（齋藤文彦君） 齊藤重議員が言うようなことを考えているわけで、なかなか職員の給料を上げろと言われても、なかなかこういう非常に厳しい時で、上げるのは非常に厳しいわけですが、いろいろ中の話し合いで、それなりのことはしなければいかんということで、やっていきたいと考えています。

○企画観光課長（山本 公君） 齊藤議員の方からもご提案みたいな形でありましたけれども、公営企業法の中で、長期貸付という形の中で、町が切り替えたということもありますので、そういうことも踏まえて、コスト削減を図っていくというようなことになろうかと思えます。

職員の関係ですが、確かに、平成18年、オープンの際には、正規職員が17名ほどおりました。現在ですと、9名ほどということで、半分くらいになってしまっているわけですので、このあたりについても、経営の状況をみながら、正規職員化できれば一番いいわけですが、そこら辺は内部で検討させていただきたいというふうに考えております。

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。時間は延長いたしますか。

○8番（齊藤 重君） 延長してください。

○議長（稲葉昭宏君） 5分延長を許可します。

○8番（齊藤 重君） 非常に難しいと言うよりも、もっと具体的にこの施設を残さなければならないという観点から言っているわけですが、実質的には、この借金というのは、これは施設の方の借金は町のものですからね。それをここへと押し付けているというのがちょっと・・・、企業会計と言うけれども、それをずっと時間がないものだから、おろ抜いてきたけれども、そういう筋合いのものから外れてこっちへとというような、企業会計にその起債も全部付いて回るというのはどうかと思うんですが、そういうふうにしちゃっているんだと思うわけですが、これを抜いて何とかならないかというのがぼくの考えなんです、結局、働いている人たちがや

る気をなくしちゃう。現状が結局、ぼろぼろ辞めていって、中間がないような状況で、「頑張れよ、頑張れよ」と言ったって、普通誰がその立場になったって、ないじゃないですか。そういうところをもう少し町としてちゃんと考えて、やりがいのある・・・、やっぱり町のシンボルですから、立て直しについてちゃんとしなければならない。それは現実だと思いますよ。

こういう問題について、ちゃんと今から町長、任期中3年と言うけれども、3年で今のままじゃあどうにもならないんじゃないですか。そのあと、どうなるんですかね。

ですから、打開策として、何かばっちっと出して、切り替えをして・・・、しょうがないじゃないですか、町の作った借金だもの。起債だもの。これを企業会計からこっちに持って来て、一般会計で立て替えてやったりすると・・・、縛られちゃうって・・・、いま6億円からある、5億4000万円ですか、そういうものの扱いをちゃんとして、いま企画観光課長が言ったけれども、もっと真剣に考えて・・・、しょうがない、しょうがないといま押し付けているような形でやったら、最終的には誰が責任を取るんですか。この大きなものを。その点を、何かいい策があればと思いますが、最後に答えてください。覚悟を。

○町長（齋藤文彦君） 私は、その3年と区切ったのは、その覚悟があって3年というお願いをしたわけですがけれども、斉藤議員の言うことは良くわかりますので、なかなかこの場でやる、やらないとなかなか言えないわけですがけれども、前向きにやっていきたいなと思っています。

○8番（斉藤 重君） これで、まとめと言うより・・・、自分がまとめたんですけども、最後に聞くということで、公社理事長の兼務が多くささやかれているというより、騒がれておりますけれども、今まで議論してきた事柄の中で、きちっと対処して、理事長を辞して、ふさわしい船頭を迎え入れて新たな船出をするという、そのうえで、ちゃんと責任のうえで、あそこをちゃんと運営する人は船頭を変えなさいとぼくは思うんですが、その覚悟はありますか。

○町長（齋藤文彦君） 船頭を変えるというのは、なかなか今のところ考えていないわけですがけれども、それなりのことも考えざるを得ないなと思っています。

○8番（斉藤 重君） 以上、いくつがございますけれども、これをいい結果に結び付くような努力を求めて、私の一般質問を終わります。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で斉藤重君の一般質問を終わります。

午後1時まで休憩します。

（午前11時42分）
